

第 41 回土木計画学研究発表会（春大会）：2010.6.5～6（名古屋工業大学）

企画セッション討議内容の記録

セッション名： 地域防災システム（3）	
日付： 6 月 6 日（日）曜日，セッション時間： 13：15 ～ 14：45	
オーガナイザー名（所属）： 高木 朗義（岐阜大学）	
討 議 内 容	（裏面に個別論文の講評を記述できる欄を設けております。必要に応じてお使いください。）
	地域防災システムに関する様々な視点からの研究発表がなされ、活発な討議が行われた。
	「災害の不確実性下における費用便益分析の基礎的検討」では、期待効用理論の成立可能性についての検討がされ、低頻度高リスクや高頻度低リスクの領域では成立しない可能性があるとの結果が示された。
	「最適な防災投資のもとでの経済成長」では、生産資本から「防災資本」を抽出した最適成長モデルを定式化し、シミュレーションを行い、「
	任意の点（災害を含む）からスタートしても、最適パスに乗り、最適点へ移動するという結果が示された。しかしながら、資本を2種類に区別した場合には解析的な最適解が求まらない、解法を示す必要があるとのコメントがなされた。
	「The relationship between local government and residents in disaster prevention activity」では、タイの火災体制において、行政の消防隊、ボランティアの消防団、住民の連携がうまくいっていないというアンケート調査に基づく結果が示された。日本では、三者の協力体制があるのに、アジアの途上国ではそれができていないというコメントがなされた。
	「観光資源としての評価から見た歴史都市の文化遺産防災に関する考察」では、文化遺産防災の社会的ユニセンサスを得るために、文化遺産の観光資源としての価値を旅行費用法によって計測した結果が示された。「文化」というものの一側面の価値を定量評価したことが討議で確認された。
	「道路途絶による社会経済損失を考慮した斜面災害リスク評価モデルの開発」では、岐阜県飛騨圏域を対象とした落石災害リスクとして救急医療や孤立集落の損失を含む評価モデルと試算結果が示された。各種損失の割合、孤立集落の状況（物流途絶、情報途絶）による相違、孤立時間（回数）などに関することが討議で確認された。
	「高速道路を対象とした救急車専用退出路の設置効果分析と3次救急医療に関する研究」では、救急車両の実際の退出路の利用状況から効果を算出し、 $B/C > 1$ であることが示された。救急人口のカバー率が向上することも示された。
	「歴史都市における災害時交通マネジメントと道路モニタリングに関する研究」では、災害時における道路のモニタリングを含む交通マネジメントシステムの有効性が示された。モニタリングの効果としては、アドホック回線により災害時も途絶せずに監視できることが確認された。

